

令和7年度 第二回女性応援会議 議事録

日時 令和8年2月3日(火)

午後1時30分～午後3時

場所 市役所6階 620会議室

〈出席者〉

委員 渡邊委員(委員長)、小田委員、深澤委員
アドバイザー 白井教授
事務局 佐野市民部長、市川市民交流課長、佐藤女性が輝くまちづくり推進室長、松永主任主査、関口

〈次第〉

- 1 開会
- 2 市民部長挨拶
- 3 協議案件
令和7年度女性活躍推進事業の取組評価について
- 4 報告案件
(1) 令和7年度「家族」フォトコンテストについて
(2) 令和8年度以降の女性応援会議について
- 5 閉会

〈協議案件〉

○令和7年度女性活躍推進事業の取組評価について

【委員長】

それでは、次第により進めさせていただきます。

事務局から、協議案件として「令和7年度女性活躍推進事業の取組評価について」が提示されています。

このことにつきまして、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

では、説明させていただきます。富士宮市の女性活躍推進事業であります、妊娠出産子育てシェアサポート事業、ふじのみやハハラッチ事業、ベビーステーション事業について、皆様からご意見をいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

お手元の資料1をご覧ください。まず、事業1 妊娠出産子育てシェアサポート事業は、社会から孤独になりがちな母親たちが悩みや不安を解消し、自分と向き合う時間や、自分のスキルアップなどを考えたりすることにより、女性の社会参加や活躍を促進することを目的

としています。委託先はNPO 法人母力向上委員会にお願いしました。事業実績は、まだ中間ではございますが、12月末までの実績を報告いたします。

まず、(1) PLAYDAY ですが、安心して子育てできる、自己と環境の整備を目的にした、親子の居場所(遊び場)の運営、妊娠・育児相談、座談会を、8回実施しました。9回目を2月12日に開催予定です。参加人数は、8回目までで197人でした。座談会や相談の内容は記載のとおりです。PLAYDAY では、居場所に遊びに来ただけのお母さんが、スタッフと話をすることで相談につながるなど、人とのつながりを通して不安を解消される方もいました。

次に、(2) FORMEDAY ですが、女性の社会参加や活躍を促進するため、保護者が子連れでも自分のために時間を過ごせる居場所の提供、講座、主に仕事関係の相談対応を、全6回実施しました。参加人数は、5回までで74人でした。座談会や相談の内容は記載のとおりです。FORMEDAY では、フリースペースで自身の手仕事やワークなど、自分のために時間を過ごされる方が多くみられました。

PLAYDAY や FORMEDAY は、妊娠中や出産前後、乳幼児を子育て中の女性の相談先や居場所としての機能を持っており、多くの利用者から、人とのつながりの大切さを感じた、育児の不安や悩みが軽減したとアンケートで回答いただいています。また、利用回数が増えるごとに満足度も上がっています。

次に(3)TRYDAY ですが、実社会での活躍の場を創出することを目的に、乳幼児を子育て中の親がやりたいこと、持っているスキルを活用する機会の提供を3回まで開催し、講師デビューは3人、参加者は23人です。2月6日に4回目の開催を予定しています。講座内容は記載のとおりです。TRYDAY は講師をやりたいという申し込みが多く、そういったお試しの場を望んでいる様子が見られます。参加者アンケートの共有が講師側のモチベーションにつながり、過去の参加者の中では別の機会で講師として活躍している人もいます。

最後に、(4) 支援ネットワークの強化では、まず「富士宮市子育て未来 LAB.」を活用し、相談内容によって情報提供や団体紹介を行うほか、各団体を紹介するパンフレットの配布を行いました。また、子育て支援に携わる13団体、20人の方に参加いただき、各々の活動内容を紹介して情報共有をしたり、産後ケア施設「てって」の現場視察や産後ケア事業への理解を深める意見交換をしたりする、子育て未来ミーティングも実施しました。活動内容の共有では、支援者同士が、地域にどのような支援先があるのか知り合い、支援環境等の課題を共有することで、連携してより良い支援につなげるきっかけを得ることができました。「てって」の現場視察では、実際に施設内を見学して感想を共有したり、施設の利用条件等について質疑応答をし、事業内容への理解を深めたりしました。ほかの支援者の活動が知れて良かった、新たなつながりが増えた、という前向きな感想をいただきました。支援者同士のつながりが広がると、網の目のように取りこぼしがなくなると考えられるので、支援の輪が広がるといい、という感想もありました。また、現地視察や質疑応答を行ったことで、自分にはない視点から理解を深めることができた、足りないことをサポートできる、といった

感想も挙がっていました。全体的に、満足度の高い結果となりました。

続いて、事業2ハハラッチ事業です。この事業は、お母さん目線で記事を公開し、富士宮市のシティセールスを行うだけでなく、記事を書くことで、子育て中で孤独になりがちなお母さんが社会とつながり、社会への参加を深めることを目的とした事業です。こちらも、委託先はNPO法人母力向上委員会です。

事業実績ですが、本年はハハラッチ活動10年目という節目の年であり、「恩送り」をテーマとして活動しております。ライターの新たな養成講座は実施しませんでした。先輩ライター達が講師となり、「楽しく！わたし向上計画」という講座を実施しました。ハハラッチの活動に興味のある方が積極的に参加していた印象で、講座の満足度も高く、好評だったと見受けられます。

次に、ハハラッチサイトへの記事投稿は、令和7年度の投稿数が、令和8年1月26日時点で68件です。総記事投稿数は、令和7年12月時点で、905件になりました。投稿内容は、保活について、新規オープンの店舗情報、ハハラッチ講座の開催報告、女性活躍に関する記事など、です。

また、ハハラッチは、今年度をもって富士宮市の委託事業を離れることになりました。令和8年度からは、新たな団体として活動していく予定です。活動10年の集大成として、2月8日に、富士根交流センターにて、イベントを開催する予定です。委員の皆様から、職員の方へぜひご周知いただけますと幸いです。

最後に、事業3ベビーステーション事業についてです。ベビーステーション事業は、子育てに優しいまちの実現に向け、子育て中の方が社会とつながりを持てる環境を整えることを目的とした事業です。内容は、ハードとソフトの両面から推進しており、ハード事業としては、コンビニや公共施設において、ミルクのお湯を提供したり、おむつ交換台があったりと、子育てしている人たちが安心して外出できるようになるための環境づくり。ソフト事業としては、地域全体で子育てしている人たちを支援していく意識醸成を図るため、中高生や事業所に向けた体験講座を開催しております。ハード面、ソフト面の両方からサポートすることで、子育ての負担を軽くし、笑顔で子育てができる環境づくりを進めているものです。こちらも委託先は、NPO法人母力向上委員会です。

ソフト面のサポートでは、Co育てアシストプログラムを使用して、主に中学生や高校生を対象に子育てに優しいまちづくりへの意識醸成を行っています。これまでの開催実績は資料のとおりです。今年度は、対象を事業所にも拡大し、さらなる意識醸成を図りました。

事務局としては、妊娠出産子育てシェアサポート事業とハハラッチ事業、それぞれの事業において助産師や保育士、Webライターなど、専門的な資格やスキルを持ったスタッフが相談や支援をすることで、孤独感や不安感を軽減し、社会とのつながりを作るきっかけを提供するなど、いずれにおいてもおおむね目的を達成していると考えます。ベビーステーション事業においても、ハードとソフトの両面から、子育てに優しいまちづくりへの環境整備が進んでいると考えています。説明は以上です。皆様のご意見をお願いいたします。

【委員長】

事務局から説明がありましたが、このことについてご意見を伺いたいと思います。

【委員長】

妊娠出産子育てシェアサポート事業の内容を伺っていて、回数も多くて、色々な内容をやられていてすごくいいなと思いました。あと、TRYDAY で、講座に参加するだけでなく、講師になって皆さんに自分のスキルとか経験とかそういったものを提供するということによって、自分から発信して受け手に喜んでもらうことによって、より喜びなどがアップするんじゃないかと思って、すごくいい取り組みだなと思ったんですけども、アートクレイシルバ体験というのを初めて聞きまして、どういったものなのか個人的に興味があったので教えていただけるとありがたいなと思いました。あと、産後ケア施設「てって」という富士宮市初の施設で、視察等あっていいなと思いましたし、私もどういった施設なのかぜひ調べて会社の方でもぜひ共有して広めていきたいなと思いました。アートクレイシルバーというのが気になったので、教えてもらえるとありがたいなと思います。

【事務局】

アートクレイシルバーは、粘土を自分の好きな形に作って焼いて、アクセサリーのようなものを作る講座だと思います。これは母力向上委員会が講師を務めるというわけではなく、起業したい方や講師になりたいと希望するような方に講師になっていただいて、講座に応募して下さる方を相手に講師を経験してもらうものです。こうした経験ができるのは一人1回限りにはなりますが、今後講師として活動していきたいとか起業したいという方が、どのように進めていけばいいのかわからないところから、母力向上委員会がサポートをして、講座の立ち上げ方や、応募の仕方、どのように周知したら届きやすいかということも一緒になってアドバイスしながら伴走型で経験していくものになっています。

産後ケア施設「てって」は、富士宮信用金庫神田支店の東側にあるのですが、もともとご自宅だったところを改装して、産後のお母さんと赤ちゃんと一緒に泊まったりして、産後の身体を休めてもらうような施設になっています。産後自分で頑張らなきゃいけないという雰囲気があると思うんですけど、誰でも無理せず人の手を借りていいんだよという意味も込めて、「てって」という名前で開業したそうです。このような施設が富士宮市では初の施設だったので、市内で子育て支援の活動をされている個人から団体の方みんなでも共有したいということで、参加者全員で施設見学をしながら、子育て支援のネットワークを形成し今後どんなことができるかというのを一緒に話し合っていました。

【委員長】

こういった施設は、富士宮市初ということだったので、ほかの地域だと導入されてた

り、普及してたりするのでしょうか。

【事務局】

産後ケア施設は、ほかの地域でもまだあまり普及していないと思いますが、「てって」は立ち上げてくださった方が市外から転入されてきた方で、自分も子育ての時にこんな施設があったらという思いがあって、志を同じくしてくれるような仲間と一緒に立ち上げたというような話を伺っていますので、まだ数は少ないのかもしれませんが。

【委員長】

なかなか聞きなれない言葉だったので、富士宮市初といったところで、より富士宮市のアピールになってすごくいいなと思いました。

【小田委員】

お母さん方の移住相談を受けることがあります。縁もゆかりもないところに飛び込む形になるので、こういった取組を紹介しています。そういった方々が安心感を得られ、受け皿として存在している意義があるかなと思います。ただ、僕自身は母力さんの LINE を知っているの、相談者に紹介することができますが、様々なニーズがある方が講座等に参加されていると思われる中で、実際に地域内の方を含めて、情報の流し方であったり、講座への参加方法であったり、連絡のやり取りなどはどういう形になっているのでしょうか。

【事務局】

PLAYDAY の居場所事業に関しては、日付だけが決まっていて、10時から14時の間でしたらいつ来ても大丈夫なんですけど、そのときのご飯の提供やケアサロン等の利用は、事前予約が必要になってきます。それは母力さんのホームページから申込ページに飛んでいただく申し込めるようになっていきます。FORMEDAY の講座も同じ感じで、母力さんのホームページにお知らせが載るので、そこから申込ページに飛んでもらって完了すると講座に参加できるようになっています。

【小田委員】

実際、地域のお母さんたちに対して、割と認知は広がっているという認識でしょうか。

【事務局】

何回もレポートで来てくださるお母さんもいらっしゃいますし、新規で新しく来てくださる方もいらっしゃるの、それなりに広報はされているのかなと認識しています。

【深澤委員】

今のお話と少し重なってしましますが、例えば市外から転入してきた方が、こちらで母子

手帳を取る際や転入時の手続きの際に、行政からこのような子育て支援がありますよというパンフレットの案内などはされているのでしょうか。

【事務局】

こども未来課にいくつか冊子があるので、それを一緒に渡されてると思います。

【深澤委員】

そこで母力さんのパンフレットなどが一緒にいただけるんですね。結構弊社も市外から転入してくる社員が多く、土地勘のないこの地域に知り合いもない中こちらで結婚して、横のつながりがなくて苦労されている方が多いので、こういった情報が行政の方から頂けると、結構安心感になるかなと。一応会社の方からも、こんな行政のサービスありますよというのは配布してたりするんですけども、ありがたいなと思いました。

【委員長】

ベビーステーション事業を当初から拝見させていただいているのですが、コンビニをよく利用するので、ベビ*ステの登録店舗が本当に増えたなど日々感じています。私はベビ*ステを目的にコンビニを利用するわけではないのですが、ベビ*ステでないコンビニよりも清潔感もあって店員さんも温かく、雰囲気もとても良い印象があり、ベビ*ステを利用する人以外も良い気分になれていいなと思ったので、登録店舗の件数を見て、そのような利点もあっていいかなと思いました。

【委員長】

そのほかにご意見はございますでしょうか。では、委員としての評価は、事務局と同様おむね達成しているということでしょうか。ありがとうございます。

協議案件「令和7年度の女性活躍推進事業の取組評価について」は以上となります。

では、白井先生から協議案件についてご意見いただけますでしょうか。

【白井教授】

10周年ということで、本当に市内への影響力というのは本当に感じる場所です。というのも、生まれたとき0歳だった子がもう10歳になっているわけで、その時にサポートしてもらった人が、赤ちゃんも小学生になり、お母さんだった人もサポートする側になるかもしれない、こういう事業っていうのは本当に市民の厚みを増していくと思うんですね。最近関係人口とか言いますが、これに関わった人口っていうのは本当にすごい厚みです。啓発って簡単に言いますが、その啓発の厚みというのが、とても大きな影響力を持っているんじゃないかなと思います。

例えば子育ての時、コンビニで子育て中の方が困るのは、自分はトイレに入りたいがベビ

ーカーに乗せた赤ちゃんがいて、このベビーカーを誰かに見てほしい、赤ちゃんを見てほしいってことだと思います。赤ちゃんと一緒にどこにも行けないとか、多目的トイレで大きなところがないと入れないとかっていうのも困るところだと思うんですけど、こういうふうにベビーフレンドリーってことをうたってくれていると、赤ちゃんの応援だけではなくて、保護者の方も助かる、温かい雰囲気があるんじゃないかなと思います。

また、母力さんの特徴ってというのは、当事者主体ですよ。自分も発信者になったり、自分もサポーターになったり、自分も講師になったりするところ。ただ支援をされるだけの存在ではなく、作り上げたり発信したりするところ。とてもいい試みじゃないかなと思います。

ただ一点、この女性応援会議でも何度か話題になりましたけど、お母さんじゃない人にとっては、ちょっと自分事じゃないかもしれない。焦点が当たっているのはいいことだと思うんですけども、事業名や活動が、母力、またハハラッチ、ベビーフレンドリーなことということで、市内には単身者の方もいらっしゃいますし、特に単身の男性からするとすごく遠い存在かもしれません。父親向けのイベントなどはされてるんですけど、ベビ*ステサポーター養成講座といった学校向けの講座だけではなくて、誰もがわかるような、もう少し裾野が広がるような試みがあったり、あるいはそういうのを地域おこし協力隊のような若者団体とかとコラボしたりして連携していくことによって、先ほど申し上げたように、母ではない人にもつながっていくような活動に展開していけるんじゃないかなと思います。子育て中の方だけでなく、単身者やおじいちゃん、おばあちゃんになった人とか、アクティブシニアと呼ばれる方であったり、色々な年齢層、色々な立場の方に働きかけていくっていうのを次の段階で考えられたらいいんじゃないかなと思いました。以上です。

【委員長】

ありがとうございました。皆様、そのほかにご意見はございますか。

これ以上はないようですので、協議案件については以上で終了となります。

〈報告案件〉

○令和7年度「家族」フォトコンテストについて

【委員長】

続きまして、報告案件に移ります。

まず、(1)「令和7年度「家族」フォトコンテストについて」事務局から報告をお願いします。

【事務局】

それでは、令和7年度に実施した『家族』フォトコンテストについて報告いたします。

開催にあたり、今年度もご協力を賜り誠にありがとうございました。お手元の資料2をご覧ください。

作品募集期間は、令和7年7月1日から9月1日まで。展示期間は、令和7年9月24日から10月10日まで、市役所1階市民ホールにて行いました。表彰式は、令和7年10月8日に行いました。申し込み作品数は、129点でした。また、受賞作品については資料3のとおりです。展示および表彰式の様子は、お手元の報告書のとおりです。

フォトコンテストを実施し、血縁関係にこだわらないというテーマのとおり、様々な家族の形や温かさを表現した作品が多数集まり、家族の大切さを改めて感じました。

表彰式では、お子さんやご家族と一緒に出席された方も多く、「家族」フォトコンテストのテーマにふさわしい、和やかな雰囲気で行うことができました。

当フォトコンテストは今年度をもって終了しますが、長きにわたってご協賛を賜りました企業の皆様には、改めて深く感謝申し上げます。

また、別事業にはなりますが、健康増進課で行われている宮パパプロジェクトという事業でも、当コンテストと類似したフォトコンテストが行われています。作品の募集期間は終了しましたが、イベント内で応募作品の展示や様々な催しが行われる予定ですので、職員の方へ、委員の皆様からぜひご周知いただければと思います。

フォトコンテストについての報告は以上です。

【委員長】

この説明に対して、質問等ある方はお願いします。

では、ないようですので、報告案件(1)「令和7年度「家族」フォトコンテストについて」は以上となります

○令和8年度以降の女性応援会議について

【委員長】

続きまして、報告案件(2)「令和8年度以降の女性応援会議について」に移ります。このことにつきまして、事務局から報告をお願いいたします。

【事務局】

それでは、令和8年度以降の女性応援会議について報告させていただきます。

女性応援会議は、女性が活躍できる社会づくりの実現を目指して、各分野の方から自由闊達に御意見を伺い、女性活躍に係る施策の充実を図る目的で平成28年度に発足し、今年度で10年目を迎えました。この間、本会議発案の事業として、市役所でのイクボス宣言や、「家族」フォトコンテストを実現してまいりました。女性が活躍しやすい社会の実現のためには、社会の最小単位である家庭が幸せであること、また、働きやすい職場環境・家庭環境

であることが必要となりますが、ワークライフバランスの考え方の浸透や、男性の育児休暇の取得率の向上などは、本会議発足当初と比較しますと、大きく推進した点であり、皆様のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

10年目の節目を迎え、この度、これまでの事業成果を鑑みた結果、当初の目的は概ね達成されたものと考え、本年度を持ちまして、この女性応援会議を閉じる判断をいたしました。

しかしながら、「女性活躍」につきましては、継続して推進していく必要がありますので、今後は、私ども女性が輝くまちづくり推進室が所管しております「男女共同参画審議会」において、女性活躍も含めた意見交換や進捗管理をしまいにしたいと考えております。

以上のとおり、これまで多大なご協力をいただきました女性応援会議は、今回を持ちまして終了となりますが、当室では、ベビーステーション事業や妊娠出産子育てシェアサポート事業等、女性活躍に関する事業を継続してまいります。委員の皆様におかれましては、今後変わらず、女性活躍の推進にご理解賜りますようお願いいたします。

令和8年度以降の女性応援会議についての報告は以上となりますが、委員の皆様から、一言ずつで構いませんので、これまでの女性応援会議についての感想等、いただければと思います。よろしく願いいたします。

【委員長】

事務局から報告がありましたが、このことについて、順番にご感想等を伺いたいと思います。

【委員長】

私は発足当初からこの女性応援会議に出席させていただいておりまして、先ほど白井先生の方から10年経つと、0歳の子が10歳に、ということで、すごく長い月日が経ったんだなというのを改めて聞いてる中で感じました。私はまだ発足当初は20代だったので、あまり女性活躍についてここまでしっかり時間を取って考える機会がなかったので、この場で委員の皆さんの意見ですとか、事務局の皆様の取組とかそういったものを通して改めて考えるきっかけになりました。

また、弊社女性が7割いる会社で、10代から70代まで、今様々な女性がいるんですけど、それぞれのライフステージに応じて感覚や感じてるところが全く違うので、やはり同じ女性であっても、一人一人に向き合いながら接していく、対応していく、というのをより感じて、積極的に取り組んでいった10年だったかなと思います。女性に限らず、誰もが活躍するには、先ほど最小単位で家族が幸せであることとありましたが、男性女性、全ての人が幸せに暮らしていくところが一番基本になりますので、会社の中でも女性だけではなくて、こういった会議で出たお話を、全体集会で話をしたりですとか、あと中心メンバーであります管理職に共有したりですとか、そういったことを通して、会社自体をレベルアップできたかなと思います。まだ途中でなかなか全員が幸せに辛くなく過ごしていくとい

うのは難しいところがあるので、本当に日々課題の繰り返し、改善の繰り返しですけれども、こちらは終了いたしますが、引き続き会社でも、みんなが多様性で活躍できる取組を進めていきたいなと思います。

最後に私事になりますが、会議発足当時は20代後半ぐらいだったんですけれども、去年は2月に立場が変わりまして、この10年の間で自分個人も色々成長できたかなと思います。この会議でいただいた色んな知識を、これから自分の人生に活かしていきたいな思っております。ありがとうございました。

【小田委員】

僕も今20代で、単身でこちらに来たので、わからないことだらけでいろんなことを想像しづらい中でしたが、こういったことにかかわらせていただいて、多くの方とかわる立場として、女性活躍などについて多少は理解ができるようになったかなというのと、女性の健康状態や体調の変化について男性も理解していこうという活動を始めた方がいたように、皆さんがやってきた活動は、最初の石を投げ込んだところから広がっていくのかなと思っています。ひとまずここで区切りは迎えますけれども、今後も広がっていくかなって思いますし、僕自身こういった形でかかわらせていただいて、できることはどんどんやっていきたいなと思います。ありがとうございました。

【深澤委員】

先ほどの「家族」フォトコンテストも今年度で終了ということで、弊社の社員もですね、私の知る限り二人ほど受賞したよという方がいて、みんなで応募してみたらって会話が社内であったりだとか、実際に受賞すると嬉しいし、景品も地域の企業さんからいただいて、こんなのもらったよなんて聞いてましたので、私としても良いイベントだったなと思うので、少し終了は寂しくも感じました。

この女性応援会議では、私自身は2020年頃から委員やらせていただきながら、この5年、6年の中で本当に実感としても社内の空気感がすごい変わったなと実感しています。

2020年頃はコロナ禍で、まずお母さんが不安を抱えてる中で、職場復帰のフォローも手一杯だったところから始まって、最近は男性育休は取れるといいねから取って当たり前ぐらいの雰囲気になりました。三交代の生産現場の男性職員も、平均的に2か月ぐらいの取得は当たり前で、出産日から取ります、なので、前倒しで出産になったら、ごめんなさい今日から育休取りますみたいなのが当たり前になってきています。女性だけじゃなく男性も含めて、かなり子育て世代への制度は手厚くなっているな、とか周囲の理解が厚くなっているなと体感として感じているところです。さきほどおっしゃっていたところで、最終的には子育て世代の男性だけ、女性だけではなくて、独身世代なども含めて、この地域で働く皆さんが、なるべく心身ともに健康で、長く充実した生活を送れることが、最終的な目指すべきところかなと思いますので、女性がというところではなくて、そこはある程度クリアしたも

のとして、企業としてもまた違うサポートなども考えていきたいなと思いました。ありがとうございました。

【委員長】

皆様ありがとうございました。
では、白井先生より総括いただきしたいと思います。

【白井教授】

10年前のことを思い出しながらおりますけれども、10年前始まった時には、本当に手探りで、女性活躍とか女性の応援っていったい何だっているところから、割と喧々諤々の議論をしたなという記憶があります。女性だけを応援するものではなく、誰もが輝けるといふところの意識合わせでだいぶ時間を費やしたなと思いますが、この会議だけでもそうなので、地域あるいは職場でもどこでもその意識合わせってというのは大変なんだろうなって思いますし、そのためにはコミュニケーションが必要じゃないかなと思います。さきほどのコメントと重なるんですけども、女性活躍とか女性応援のときに、その女性も一枚岩ではなくて、私たちがシニアの方や单身の方とかどのくらい目配りして意識的に見てこれたかなという点では反省も残るところだなと思います。

これから男女共同参画推進という枠組みに入っていくということですが、まだまだやれることはたくさんあって、例えば職場のことだけでも、職場環境を改善だけではなく、起業したいという方を応援するというところもあるでしょうし、もともと自営業の方の応援というのも入ってくるだろうと思います。いわゆるケアに関するところでいうとこの会議は主に育児というところに焦点を当ててきましたが、看護だったり、介護だったりというようなケアの部分もまだまだできることがたくさんあると思います。あとは、いろんな男女共同参画ってところだと、自治会・町内会の会長の女性比率だったりとか、防災にどのくらい女性が入ってるかとか、議員の数などというのが数値で出されますけど、防災とか、自治会・町内会だと女性が意思決定にかかわるのって本当に少なく、そのあたりもこれからの暮らしやすい環境を作っていくときのカギになってくるんじゃないかなと思います。結局この会議も最終的に目指していたのは、女性を増やそうってことではなくてダイバーシティだと思うんですね。ジェンダーさえダイバーシティに対応してないのであれば、ほかの部分もダイバーシティを目指していないということで、一つの指標というか手がかりになっていたんじゃないかなと思います。なのでこの会議の役割は一旦終わるということですが、まだまだできることはたくさんありますし、この会議の良かったところを今後活かしていくことができればと思います。

私がこの会議のすごくいいなと思っていたことは、企業の方や自営業の方、学校、地域の団体など、様々な立場の方がそれぞれにかかわりをもってこの会議を成立させていたってというのが本当にいいところだったと思うので、今後もそういった取組ができることを切に

願っております。ということでコメントとさせていただきます。ありがとうございました。

【委員長】

ありがとうございました。協議案件及び報告案件は以上で終了させていただきます。進行を事務局にお返しします。